

## お知らせ

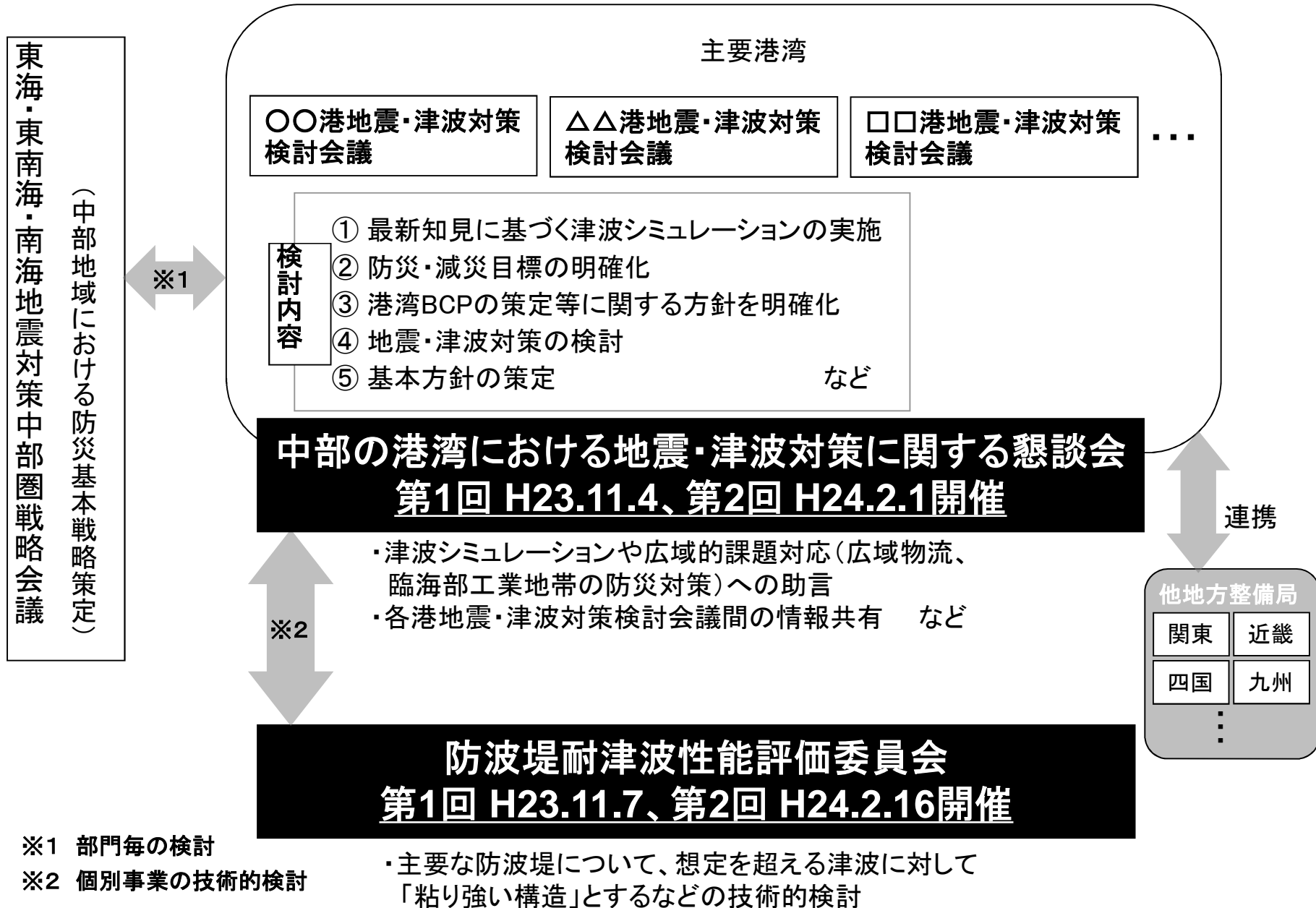
1. 件名 : 第2回 防波堤耐津波性能評価委員会を開催します
2. 概要 : 中部地方整備局は、名古屋港高潮防波堤他を対象に、津波に対する安定性を確認し、想定を超える津波に対して粘り強い構造とするなど必要に応じた対策を検討するため、有識者による第2回委員会を開催します。
3. 本文 : 昨年3月11日に発生した津波は、それまでの想定を大きく超えるものであり、東北地方沿岸に甚大な被害をもたらしました。このことを踏まえ、中央防災会議では、西日本地域の想定津波の見直しを行っており、中部地方整備局管内港湾においてもこれまでの想定を大きく超える津波の襲来が懸念されます。  
一方、(独)港湾空港技術研究所の調査によると、岩手県釜石港では津波防波堤が壊滅的な被害を受けたものの、背後地への津波高を4割低減するなど減災効果があったことが報告されています。  
そこで、中部地方整備局では、名古屋港高潮防波堤及び御前崎港西防波堤を対象に、津波に対する安定性を確認し、想定を超える津波に対して粘り強い構造とするなど必要に応じた対策を検討するため、有識者による委員会を開催します。委員会は年度内に計3回の開催を予定しております。
4. 委員名簿 : 別紙参照
5. 日時 : 平成24年2月16日(木) 10:00～12:00
6. 場所 : 名古屋ダイヤビルディング 第2号館 4階 244会議室  
住所 名古屋市中村区名駅3丁目15番1号
7. 議題 : ①防波堤の耐津波安定性照査について  
②防波堤の対策工法(案)について
8. 解禁 : 指定無し  
※) 写真撮影につきましては開会挨拶までとし、傍聴は不可とさせていただきます。なお、議事概要につきましては、委員会終了後12時頃より231会議室(3階)にて説明を行います。
9. 配布先 : 中部地方整備局記者クラブ、名古屋港記者クラブ、静岡県政記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス
10. 問合せ先 : 中部地方整備局 名古屋港湾空港技術調査事務所  
所長 内田、前任建設管理官 小椋 052-612-9984

防波堤耐津波性能評価委員会 委員名簿

- 水谷 法美 名古屋大学大学院 工学研究科 教授
- 春日井康夫 九州大学大学院 工学研究院 教授
- 一井 康二 広島大学大学院 工学研究科 准教授
- 富田 孝史 独立行政法人港湾空港技術研究所  
アジア太平洋防災研究センター 上席研究官
- 下迫健一郎 独立行政法人港湾空港技術研究所  
海洋研究領域長
- 野津 厚 独立行政法人港湾空港技術研究所  
地震動研究チームリーダー
- 長尾 毅 国土技術政策総合研究所  
港湾施設研究室長

(順不同・敬称略)

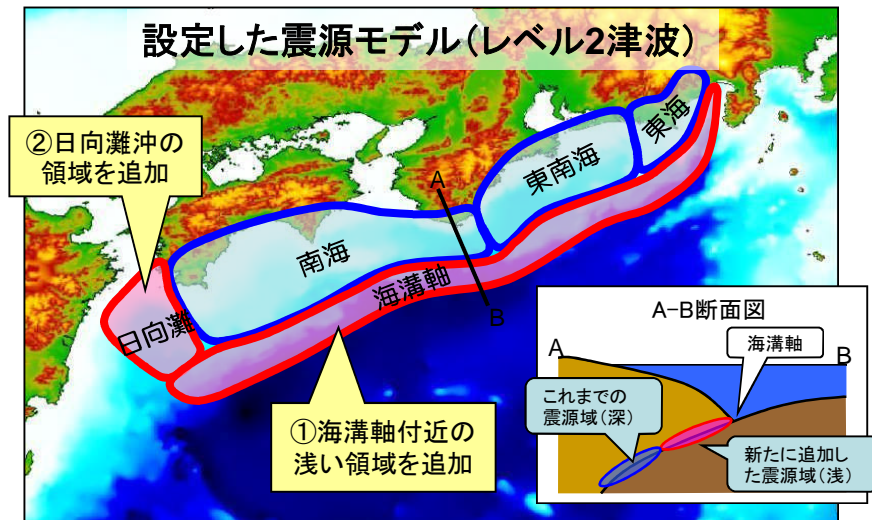
# 中部の港湾における地震・津波対策検討 体制図(イメージ)



# 新しく設定した震源モデルの考え方

## ■津波シミュレーションの位置付けについて

- 東北地方太平洋沖地震を踏まえた新たな南海トラフ震源モデルが中央防災会議で検討されているが、各港湾における津波対策を早急に検討すべく、有識者からの意見を伺いつつ、中部地方整備局にて港湾を中心とした津波シミュレーションを実施するもの。
- 今般算出する津波シミュレーション結果は、今後、**中央防災会議等で正式な結果が公表されるまでの「暫定的に扱う参考値」とする。**



## ◇新しい震源域の追加

### 【海溝軸付近の浅い震源域の追加】

東北沖地震では、これまで想定されていた深部の震源域に加え、海溝軸付近の浅い領域が大きく滑ったことにより巨大な津波が引き起こされた。

### 【日向灘沖の震源域の追加】

地質調査と痕跡調査により、日向灘沖の震源域が、東海・東南海・南海地震と連動する可能性が指摘されている。

### 【地震のマグニチュード】

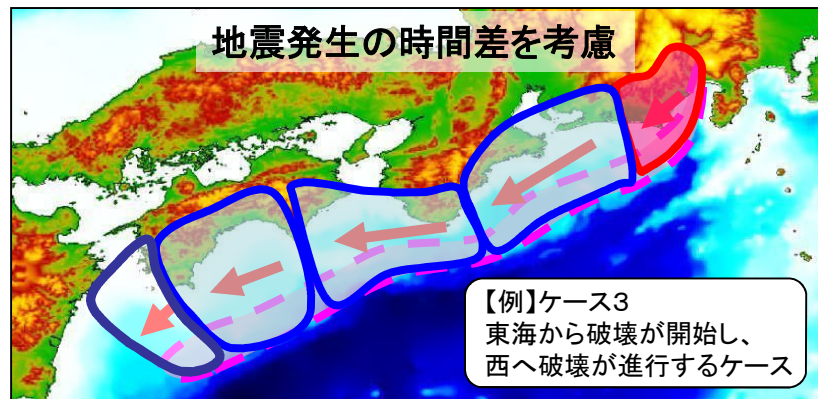
M8.9

## ◇地震発生の時間差を考慮

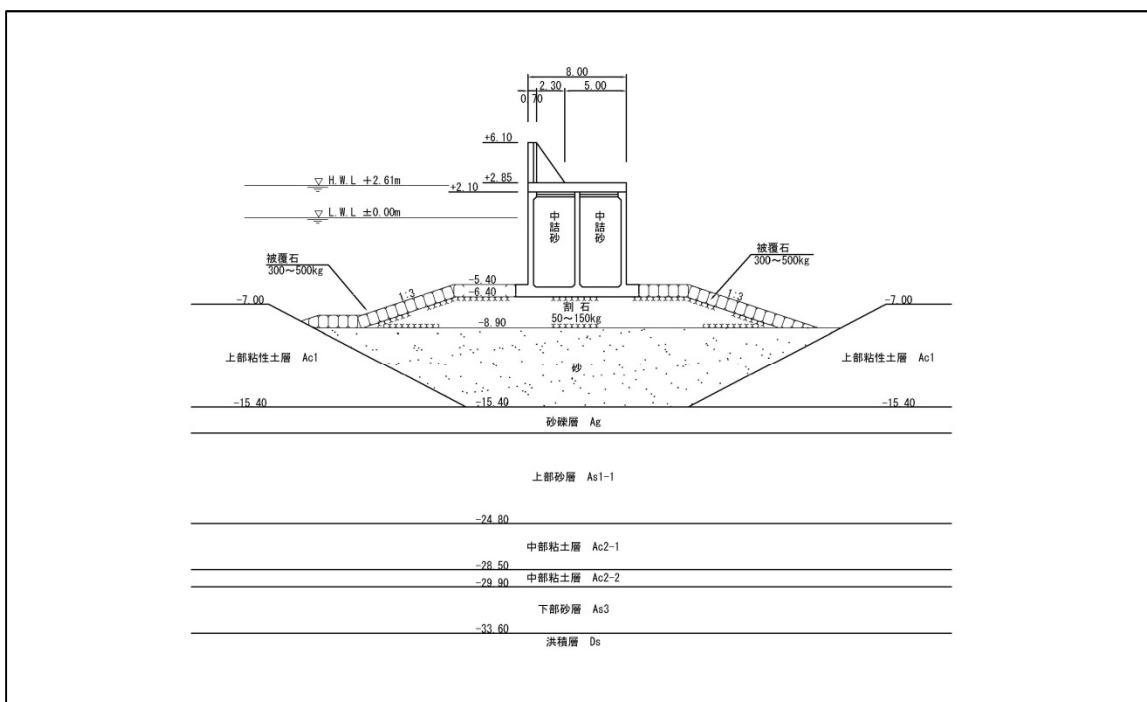
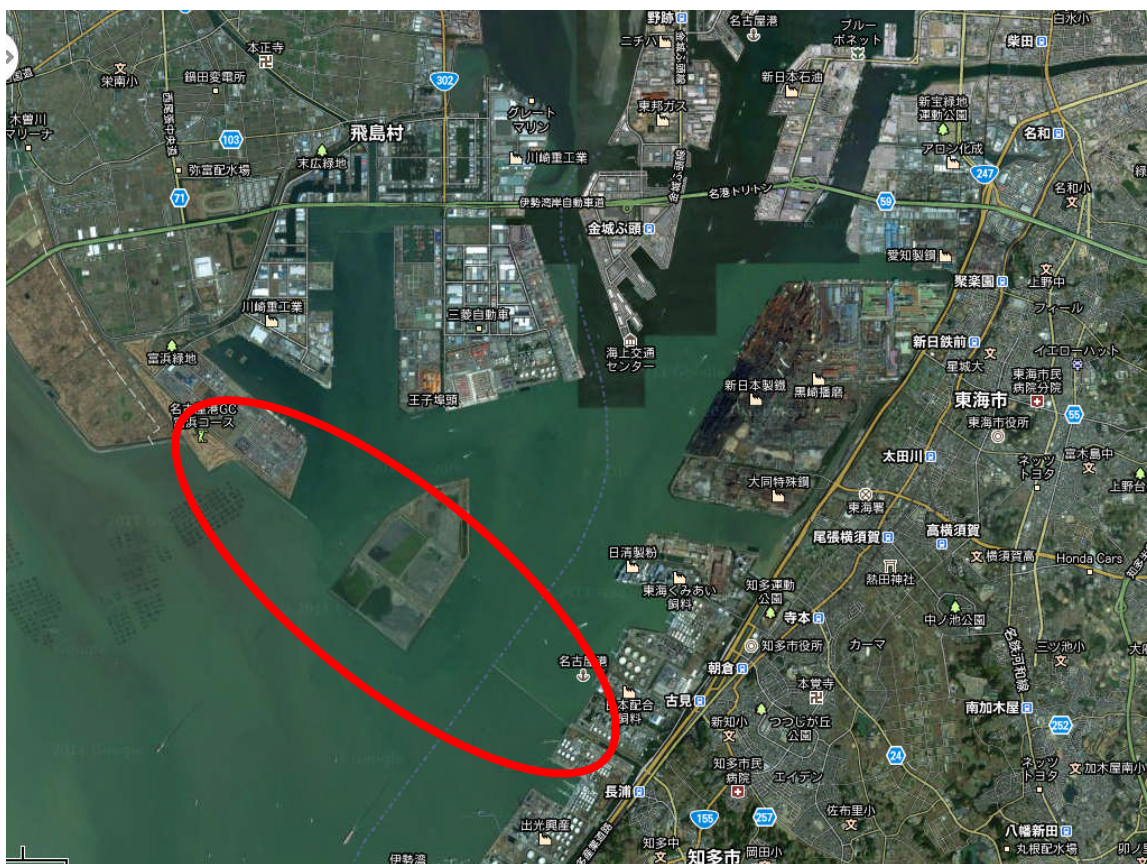
想定した5つのセグメントそれぞれが時間差(5分、10分、15分、20分)で破壊し、津波の山が重なりより大きな津波が発生することを考慮。

破壊パターンは以下の5ケース。

- ケース1 : 5つのセグメントが同時破壊
- ケース2 : 海溝軸→陸側4つのセグメントの同時破壊
- ケース3 : 東海から西へ破壊が広がるケース
- ケース4 : 中央から東西へ破壊が広がるケース
- ケース5 : 日向灘から東へ広がるケース



# 検討対象施設(名古屋港高潮防波堤)





# 検討対象施設(御前崎港西防波堤)

